

「考える力を育てる指導」編

# さぬきの授業 基礎・基本

～ 子どもに学びのときめきを～

## 実践事例集Ⅳ



平成27年3月  
香川県教育委員会

# 目次

I	はじめに	2 p
II	子どもの課題意識を高める指導	3 p
○	「考えたくなる課題」(考える切実感を高める)とは?	
【中社】	予想を覆す事実を示し、考える切実感を高める	4 p
【中理】	認識を覆す現象を示し、考える切実感を高める	5 p
【小社】	資料を選択する場が、切実感を高める	6 p
○	「考える必要感のある課題」とは?	
【中音】	部分に分けることで、関係を視覚化する	7 p
【小図】	視点によるイメージの違いを視覚化する	8 p
【小家】	現実社会の課題から身近な生活を創意工夫する	9 p
○	「子どもが課題を見付けられるようにする」とは?	
【小理】	自然事象を丹念に観察する	10 p
【小社】	社会事象を丹念に観察する	11 p
【中技家】	新たな視点から振り返る	12 p
○	「課題解決の道筋を明らかにする」とは?	
【中美】	考える手がかりを提示する	13 p
III	自分の考えを表現する場の設定	14 p
○	「表現方法(ノートの使い方等)を具体的に指導する」とは?	
【小総】	思考ツールでよさと問題点に整理する	15 p
○	「振り返り」とは?	
【小音】	自分のできる方法で表現させる —オノマトペで歌詞づくり—	16 p
【中保体】	映像やデータで自分を振り返る —技能の簡略化・ルールの簡素化—	17 p
○	「選択の場」とは?	
【中国】	選択の場が個々の考えを創る —互いの俳句を相互評価する—	18 p
IV	言語活動を充実させる指導	19 p
○	「身に付けさせたい思考力を見極める」とは?	
【小国】	比較思考は、異同に目を付ける —観点を揃えるから比べられる—	20 p
【小体(保健)】	仲間分けする思考は、共通点に着眼 —分類整理はKJ法で—	21 p
【小算】	全体と部分の関係付ける思考は、図を対比する —テープ図に書き込み—	22 p
【中数】	順序よく整理して調べ、予想を確かめる —樹形図に整理する—	23 p
【中英】	相手を想う思考力は、シミュレーションで —道案内シミュレーション—	24 p
V	おわりに	25 p

# I はじめに

本冊子は、「さぬきの授業 基礎・基本 ～子どもに学びのときめきを～」(平成 25 年 3 月 香川県教育委員会発行)のⅡに書かれている 3 つの内容を小・中学校の授業で具現化した実践事例集です。

平成 26 年度は、香川県小学校教育研究会、香川県中学校教育研究会から合わせて 150 事例を提供いただき、本冊子では、その中から「考える力を育てる指導」をテーマに 19 事例を紹介しています。

「考える力」は、学力の中核をなす力でありながら、教師の側からは見えにくく捉えにくいゆえに、育てにくく測りにくい面があります。

それは、考える力が「拡散思考」「収束思考」「比較思考」「関連思考」「論理的思考」「創造的思考」・・・と、様々な表情をもつ上に、問題解決のプロセスに働く力だからかもしれない。

この難しいテーマに、香小・中研 18 部会がチャレンジし、事例を提供していただきました。

「考える力」は、「考えなさい」と言われて身に付く力ではありません。「考える」ことは、きわめて主体的・能動的な機能だからです。第Ⅱ章では、この子どもの「課題意識を高める」ことをテーマに、10 事例を掲載しています。

また、「考える力」は、経験や知識をもとにあれこれと頭を働かせることですから、考える前提には経験や知識が必要ですし、考えた結果は既にひとつの知識・概念になっています。つまり、知識の習得を大切にしながら、同時に知識を活用する力を育てていかなければならないところにも「考える力」を育てる難しさがあります。このことは、子どもの側から言えば、「何を学んだか」以上に「どのように学んだか」が問われていると言えるでしょう。

子どもがどう理解したかをつかむためには、子どもの表現を見取る必要があります。また、表現させることで思考が進む場合もあります。つまり、理解と表現と思考は密接な関係にあると言ってよいでしょう。第Ⅲ章では、「自分の考えを表現する場の設定」をテーマに、4 事例を掲載しています。

さらに、「考える力」は、「分ける力」と「つなぐ力」に分類することもできます。比較思考や分類思考などの分けようとする力、関係付ける思考や関連・総合する思考などのつなごうとする力、この 2 つの力のベクトルは真反対ですから教師の働きかけも全く別になります。このように子どもに身に付けさせたい「考える力」がどのような力なのかを見極めることが「考える力」を育てる上で、非常に大切なポイントとなります。第Ⅳ章では、このことについて「言語活動の充実」をテーマに、5 事例を掲載しています。

本冊子で紹介している事例や留意点をご覧いただくことで、その基となる考え方を「さぬきの授業 基礎・基本」に求めたり、「さぬきの授業 基礎・基本」から「これは具体的にはどういうことなのだろう」と問いをもって本冊子を開いていただいたりして、日々の授業改善に役立てていただけることを願っています。

なお、本冊子で紹介できなかった事例については、県教育センターのホームページ ([URL http://www.kagawa-edu.jp/educ/htdocs/](http://www.kagawa-edu.jp/educ/htdocs/)) に掲載していますので、ぜひご覧ください。

## Ⅱ 子どもの課題意識を高める指導

「考える」ことは、主体的な活動ですから、子ども自身が能動的に「考えよう」としない限り「考える力」は身に付きません。では、子ども自らが考え課題を解決しようとする意識は、教師のどのような働きかけによって高まるのでしょうか。

「さぬきの授業 基礎・基本」第Ⅱ章では、「課題意識を高める」ことについて、次のように述べています。

### 課題意識を高めるために

- ☆ 考えたい課題、考える必要感のある課題を設定する
- ☆ 子ども自身が課題を見付けられるようにする
- ☆ 考えるきっかけとなる教材提示の仕方を工夫する
- ☆ 課題解決の道筋を明らかにする

これらを基にした実践では、次のようなことが明らかになってきました。

#### 「考えたい課題」（切実感を高めること）とは？

次のような働きかけによって、考えようとする意欲を喚起する効果が見られました。

- 予想（認識）を覆す事実や現象（認識のずれ）を明示する
- 子どもに選択させる
- 子どもの視野の外側にある事実を提示する
- 共通体験によって、経験の差を補い、同じ思考のステージに立たせる
- 現実社会や身近な生活と関わりのある事象を提示する
- 非日常的な体験を設定したり、普段見慣れない現象を提示したりする

#### 「考える必要感のある課題」（必然性をもたせること）とは？

次のような働きかけによって、考える必然性を自覚させる効果が見られました。

- 全体を提示した後、部分ごとに提示し、違いに気付かせる
- 個々の感じ方や視点によるイメージの違いを視覚化する
- 現実社会の課題から身近な生活を見つめ直す
- ICTの活用により、自分を振り返らせる
- 伝え合う場を設定し、自分の言葉で表現させることにより、理解の不足を自覚させる
- あえて誤答を取り上げる

#### 「子ども自身が課題を見付けられるようにする」とは？

次のような働きかけによって、子ども自身に課題を発見させる効果が見られました。

- 事象、事物、現象を丹念に観察させる
- 普段の生活を視覚化し、新たな視点から振り返らせる
- 繰り返し「試す」ことができる教具を工夫する

#### 「課題解決の道筋を明らかにする」について

次のような働きかけによって、見通しをもち課題解決に向かう効果が見られました。

- 考える手がかりを提示する
- 課題解決に向けて、基礎と応用の2コースを設ける

ここでは、■の項目について、実践事例を紹介します。

## さぬきの授業 基礎・基本Ⅱ-1 子どもの課題意識を高める指導

### 「考えたくなる課題」とは？—予想を覆す事実を示し切実感を高める—

中学校第2学年 地理 単元「世界と比べた日本の地域的特色-自然環境の特色-」

#### 1 本実践で身に付けさせたい「考える力」

「ため池が多い」という地域的特色を切り口として、その理由を予想し、複数の資料を用いて香川県の気候や起こりやすい災害について、検証し考察する力

#### 2 実践の概要

「日本の気候の特色」と「日本のさまざまな自然災害と防災」を学習した後の発展的な学習として、「なぜ香川県には多くのため池があるのだろう」という学習課題を設定し、検証、考察させた。日本の自然環境の理解を深めさせるために、日本各地の気候や災害、防災について学習した後、子どもの身近な地域を題材として取り上げ、既習の内容をもとに予想させ、複数の資料を用いて考察させることにより、課題意識を高めようとした。

#### 3 手立ての具体

具体的には、次のように展開し、子どもが「なぜ？」と疑問に思う学習課題を設け、その解決を図らせた。

- ① なぜ香川県に多くのため池があるのかを予想させる。
- ② 日本や外国の都市と降水量を比較させ、**香川県の降水量が極めて少ないわけではないという事実**に気付かせる。その際、**地形等の資料はまだ提示しない**ことで、疑問を深めさせる。
- ③ **河川の勾配や月別流量の変化を示すグラフなどの複数の資料を提示し検証させる。**
- ④ 複数の資料を用いて考察させ、米の生育時期に河川の流量が極端に減ることなど、降水量以外に多様な要因があることを認識させる。
- ⑤ 瀬戸内の気候と干害という自然災害について学習した上で身近な地域を例にした事例としての位置付けを確認する。
- ⑥ 防災に関する学習内容なので、**渇水対策として作られた貯水池である「宝山湖」を紹介する。**

#### (3) 学習指導過程

学習活動及び学習内容 (学習形態)	○指導上の留意点 ◇評価(観点) [方法]
1 前時の学習内容をふまえ、学習課題をたてる。(全員)	○前時の学習問題を再確認することで本時の学習活動を明確にする。
なぜ香川県には多くのため池があるのだろうか。	
2 予想をたて発表する。(個人)	◇学習課題に対する予想を自分で考えてたててきているか。(興味・関心) [ワークシートへの記述内容]
3 予想を検証する。(個人→グループ)	○日本の他地域や外国の都市と高松の降水量を比較して、降水量のみがため池が多い理由ではないことに気づかせる。
○雨温図による香川県と国内外他の都市との比較 ・日照時間 ・降水量 ○河川の勾配 ・香東川の上流、中流、下流の写真 ・香東川の傾斜グラフ	○香川県にため池が多いのには多様な背景があることを理解するために、気候のみではなく、地形等とも関連づけて考えるように助言する。 ◇問題解決のための資料を選択し、複数の資料や作業の結果をもとに、適切な判断ができていないか。(思・判) [ワークシートへの記述内容]
4 予想を検証する。(個人→グループ)	○十分に考えられていない生徒については、机間指導時に資料のどこを見たり、どの資料と比較したりするとよいか個別に助言をする。

【本時の指導案の一部】

学習課題：なぜ香川県には多くのため池があるのだろうか	
1 予想を立ててみよう	2 資料をもとに考えてみよう。(例) 資料○より、・・・ということが分かる
<b>私の予想</b> ・川の角度が急で、水が流れていくのが速いから、水がため池にたまる。	<b>私の考え</b> ・資料2より、香川は山が深く傾斜が急で、平地面積が広いから水を地上にたたくことが出来る。→雨が降ってもすぐに流れてしまう。 ・資料3より、上流は急流、水が流れると、その間に水がため池にたまる。
<b>友だちの予想</b> ・降水量が少ないので、水がため池にたまる。	<b>友だちの考え</b> ・資料1より高松の降水量は香川(高松)より多い。 ・資料3より上流は急流、下流は緩流で、水がため池にたまる。
<b>わかったことをまとめてみよう。</b> 地形 → 山が深く、傾斜が急で川が急激に流れる。水をためるには、(資料2)川の月別の流量の差が大きい。(資料4) 渇水時には 0.2/sec にまで下がってしまう。 農業 → 香川は米作りが盛んで、米づくりに水が必要だが、ちょうど水が必要な時期に渇水がおこるので、農業用水をかく保つため、ため池が必要！	

【子どものワークシートより】

#### 4 手立ての効果

気候と自然災害や防災についての学習後に、身近な地域を取り上げて考えさせることで、防災という視点が明確になった。また、「干害＝降水量が少ないから」と結びつけやすい子どもたちに、降水量の少なさだけでは説明できない資料を提示し検証させる中で見つけた諸要因をもとに、多面的に考察することの大切さを認識させることができた。

#### 5 若い先生のためのワンポイントアドバイス

子どもはある事象を一面だけからとらえがちである。子どもの認識する事実にゆさぶりをかける発問や資料の提示により、「なぜ？」という疑問がわき、課題意識をより高めることができる。

# さめきの授業 基礎・基本Ⅱ-1 子どもの課題意識を高める指導 「考えたくなる課題」とは？－認識を覆す現象を示し切実感を高める－

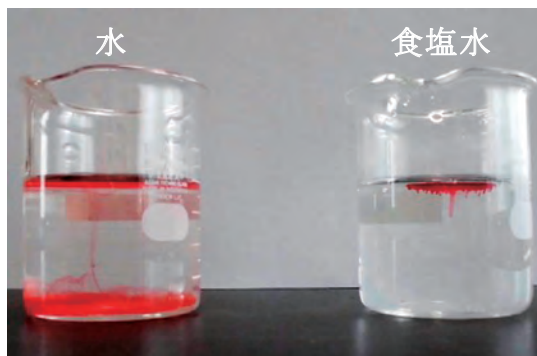
## 中学校第1学年 理科 単元「身のまわりの物質とその性質」

### 1 本実践で身に付けさせたい「考える力」

赤インクが水には沈むが、食塩水には浮く理由を、密度の違いから仮説を立て検証する力

### 2 実践の概要

学習問題「水に沈む赤インクが食塩水に浮くのはなぜか」を追究した。水と食塩水それぞれに赤インクを1滴たらす実験を行い、仮説を立てさせた。そして、仮説をもとに水と食塩水の密度を測定し、比較させた。子どもの予想に反する結果が出る現象について考えさせることで、課題意識を高めようと考えた。

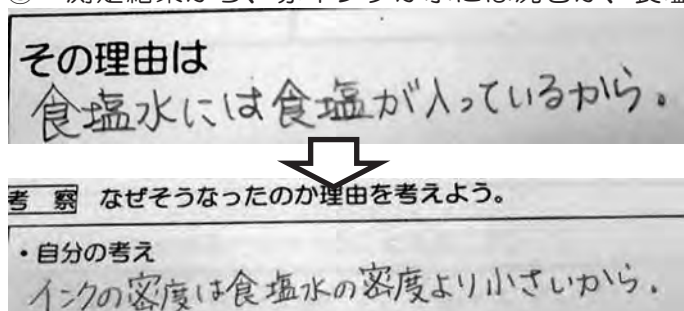


【赤インクを入れたときの様子】

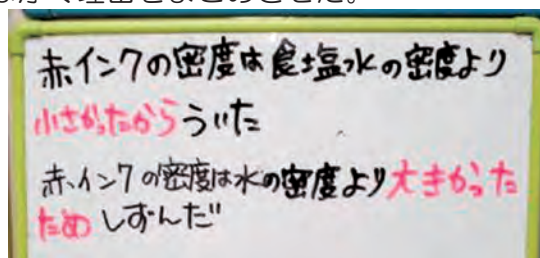
### 3 手立ての具体

具体的には次のように展開し、子どもの課題意識を高めようとした。

- ① ものの浮き沈みは物体の質量または重さだけが要因と考える子どもが多い。そこで、1滴の赤インクが液体の種類によって浮いたり沈んだりする現象を提示し、質量の違いが原因ではないことを実感させた。そして、「密度」に注目させることでその理由を考えさせた。
- ② 水、食塩水の密度を測定し、赤インクの密度と比べ、仮説を検証させた。
- ③ 測定結果から、赤インクが水には沈むが、食塩水には浮く理由をまとめさせた。



【食塩水に浮くと予想した子ども】



【話し合った内容】

### 4 手立ての効果

赤インクは水に入れるとすぐ沈むが、食塩水にはしばらく浮く現象を見せることで、子どもに驚きを感じさせることができ、それが課題意識を高めることにつながった。また、自分が立てた仮説をもとに課題を解決することで、分かる喜びを感じさせることができ、定量的に調べることの大切さに気付かせたり、身の回りの現象に目を向けさせたりすることができた。

#### ＜今日の授業で分かったことを書こう＞

- ・液体より密度が大きいものは沈み、小さいものは浮くことが分かった。密度の測定のしかたも分かった。
- ・ものが浮いたり沈んだりしているのは、密度が関係していることが分かりました。
- ・同じ液体でも密度は違う。  
身近なものだと水>油だと思った。他のものの密度も調べてみたい。

### 5 若い先生のためのワンポイントアドバイス

物質の「密度」の違いと浮き沈みの関係は気体の性質や状態変化など、様々な単元で活用される。子どもが不思議だと思ふ事象を扱うことが課題意識につながり、その理由を考えさせることで探究心を高められる。赤インクの代わりに卵などを使うことも考えられる。

さぬきの授業 基礎・基本Ⅱ-1 子どもの課題意識を高める指導  
 「考えたくなる課題」とは？ - 資料を選択する場が切実感を高める -

小学校第5学年 社会 単元「日本の水産業」

1 本実践で身に付けさせたい「考える力」

水産業に関する複数の資料を比較・関連付け、我が国の水産業の課題を表現する力

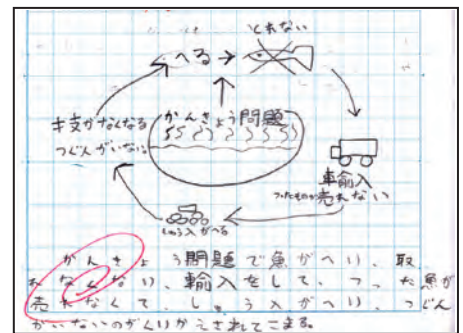
2 実践の概要

学習問題「どうして、漁獲量が減少しているのか。日本の水産業の課題を見つけ出そう」を追究した。従来、「漁業別の生産量の変化」のグラフからその原因（例：遠洋漁業の生産量が減っているのは、200海里水域が設定されたからだ）を考えさせていたが、漁獲量減少の原因はひとつの要因だけでなく複数の要因が複雑に絡み合っている。そこで、**子ども自身が複数の資料を読み取り、比較・関連付けしながら日本の水産業の課題を見つけ出す**活動を設定した。このことにより、日本の水産業の未来を考えたいという課題意識をより高めようと考えた。

3 手立ての具体

具体的には、次のように展開し、日本の水産業の課題を見つけ出した。

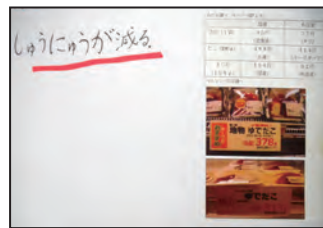
- ① 漁獲量が減少している原因を予想させる。
- ② グループで協力して資料を読み取らせる。その際、後の交流で伝えやすくするため、**漁獲量が減っている原因に赤で線を引かせ、そこから漁業従事者が困ることを資料の横にメモさせておく。**
- ③ 読み取ったことを伝え合い、共通点を見付けたり、関連付けたりする。
- ④ 見つけ出した課題を発表し、日本の水産業の課題について学級全体で話し合う。



【課題を見つげ出した児童のノート】



【資料の読み取り】



【資料から見つけ出した水産業の課題】



【資料同士の関連を考え発表する児童】

4 手立ての効果



【本実践の板書】

じっくりと資料と向き合い、資料を読み取る時間を十分確保したことで、スムーズに子ども同士が話し合いを進めることができた。また、課題を見つけて終わりではなく、課題同士の関連性を見付け出し図式化することが可視化され、日本の水産業の課題に対する方策を調べたいという意欲を高めることができた。

5 若い先生のためのワンポイントアドバイス

資料の読み取り方（縦軸や横軸が表すもの、出典、傾向等）を丁寧に指導し、資料を読み取る力を付ける。また、関連付けて思考したことを図式化することによって新たな思考が生まれる。さらに、一目で見て学習の流れや思考が見える板書を心がけたい。

さめきの授業 基礎・基本Ⅱ-1 子どもの課題意識を高める指導  
「考える必要感のある課題」とは？—部分に分けることで関係を視覚化する—

中学校第2学年 音楽（鑑賞）「オーケストラの多彩な響きを味わおう」

1 本実践で身に付けさせたい「考える力」

楽曲の特徴である音楽を形づくっている要素と、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ、曲想との関わりを感じ取りながら聴き、主体的に解釈したり価値を考えたりする力

2 実践の概要

交響組曲「シエラザード」より第2楽章を用いて、学習課題「オーケストラの多彩な響きを味わおう」を追究した。オーケストラ全体の響きを鑑賞するだけでなく、**旋律のみを収録した音源や伴奏のみを収録した音源を用い、旋律と伴奏、そしてオーケストラ全体という3つの切り口から、さまざまな楽器の音色やその重なりなど、巧みなオーケストレーションの面白さを味わい、音楽の諸要素の働きがもたらす効果について感じ取れるように考えた。**

3 手立ての具体

具体的には、次のように展開し、課題解決に取り組めるようにした。

① オーケストラ全体による演奏を鑑賞し、楽曲の全体像をつかませる。

② **旋律のみを収録した音源を鑑賞**し、順に受け継がれていく楽器の音色の特徴や、音楽の雰囲気を感じ取らせる。

③ **伴奏のみを収録した音源を鑑賞**し、旋律に対応するそれぞれの場面の雰囲気の違いを感じ取らせ、その違いをもたらす音楽の諸要素の働きに注目させる。

④ オーケストラ全体による演奏を鑑賞し、旋律と伴奏が合わさった時の楽器の音色の重なりや、オーケストレーションの面白さに気付かせる。

⑤ 旋律と伴奏との関わりについて感じ取ったことをグループで互いに発表し合い、意見を交換する。

4 手立ての効果

旋律と伴奏など、音楽の諸要素の働きを感じ取りやすい形にオーケストラを分解し、分析的に鑑賞させることで、より具体的に諸要素がもたらす効果を感じ取ることができた。また、グループ活動を通して、友だちの考えを参考にして新たな気づきが得られ、より能動的に活動に取り組むことができた。

5 若い先生のためのワンポイントアドバイス

着目するポイントを明確にし、焦点をしばった鑑賞をすることで、音楽を聴いて主体的に解釈したり価値を考えたりすることができる。

交響組曲「シエラザード」から 第2楽章  
リムスキー・コルサコフ 作曲

1. 楽器の音色や音楽の雰囲気の変化に注目して聴こう

🎧 ① 旋律に注目した鑑賞

楽器名	音色、雰囲気	友だちの意見
A フアゴット	ほんやりとした音色で、どこかふしぎな感じ	鼻がフツツするような音色
B オーボエ	暗くはないけど、どこか悲しい フアゴットより音のリムがくちはりしている	哀愁かたじけなく しぶい
C ヴァイオリン	音がのびやかで、透明感がある	フアゴットやオーボエより ははりと主張する感じ
D ティンパニ	くつきりと通る音色。華やかで明るい	音のつぼみが立っている

🎧 ② 伴奏に注目した鑑賞

A	音が止まっている。停滞してたたよっているような感じ	背景がぼやけている様子
B	ジャランジャランと 静かにゆったりと音楽が進んでいく (動きの幅が小さい)	ハーフの伴奏



# さぬきの授業 基礎・基本Ⅱ-1 子どもの課題意識を高める指導 「考える必要感のある課題」とは？－視点によるイメージの違いを視覚化する－

## 小学校第3学年 図画工作 単元「この木、どんな木？」

### 1 本実践で身に付けさせたい「考える力」

さまざまな木の写真を自分らしい見方や感じ方で味わい、それぞれの木のイメージや、形や色の面白さをせりふやお話に表現する力

### 2 実践の概要

対話を通してお互いのイメージのおもしろさやよさを認め合い、自分の見方や感じ方で鑑賞することの大切さを実感することで、どの子も見ることを楽しむことができるようにした。

### 3 手立ての具体

具体的には、次のように展開し、子どもが「何を」「どう見たか」を捉えるようにした。

① 教科書の写真の中から「お気に入りの木」を選ばせ、ワークシートに形や色、感じなどの特徴を記入させる。

・イメージマップを使い、短い言葉で見つけた特徴を記録することにより、自分がどこに視点を置いて見たかを意識させた。

・木の特徴が浮かびにくい子どもには、葉・枝・幹などの部分に注目させた。

② 同じ木を選んだ者同士で見取ったイメージについて対話させる。

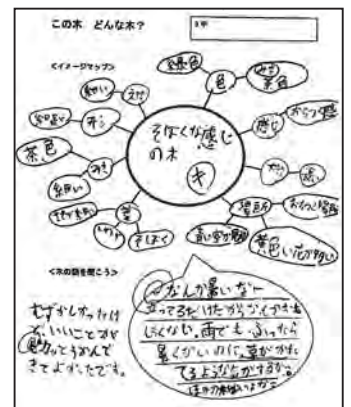
・何を見てそう感じたか、具体的に相手に分かるようにイメージマップの言葉を使って対話するように助言した。

・同じ木でも視点の違いでイメージが違ってくことを楽しむように助言した。

③ 木になってせりふを考え、発表させる。

・自分がその木になってせりふを言うように助言し、感じたイメージにふさわしい言葉を使って話せるようにした。

・背景に注目させ、どのような状況で話しているのか想像させた。



【イメージマップ】

### 4 手立ての効果

イメージマップを使って見たり感じたりしたことを記録していくことにより「何を」「どのように」見ているのか、それぞれの子どもの視点が視覚化され、意欲的に鑑賞活動に取り組むことができた。



【視点を共有して対話】



【板書によりイメージを共有】

また、板書でイメージを共有化することにより、教師もそれぞれの子どもが感じたイメージを把握し、それにふさわしい表現をした子どもを称賛することができた。さらに、話合いの中でそれぞれの木の特徴を表すのにふさわしい比喻や擬態語が使えるようになったり、形や色などの特徴を表す造形言語が使えるようになったりして、子どもたちの語彙が拡充されてきた。

こうした活動のなかで、子どもたちは自分や友だちの見方のよさや面白さに気づき、主体的に「見る」活動を楽しむようになる。

### 5 若い先生のためのワンポイントアドバイス

「何を」「どのように」見るか視点を明確にし、ペアでの対話などで話し合うことで、お互いの見方、感じ方のよさを認め合うことができる。こうした経験が自分の見方に自信をもち、それらを生かして、表現したり、鑑賞したりすることにつながる。

# さぬきの授業 基礎・基本Ⅱ-1 子どもの課題意識を高める指導 「考える必要感のある課題」とは？—現実社会の課題から生活を創意工夫する—

小学校第6学年 家庭 題材「まかせてね 今日の食事 ～野菜食べん県返上大作戦～」

## 1 本実践で身に付けさせたい「考える力」

新聞記事をもとに課題を設定し、「野菜食べん県（野菜の摂取量全国最下位）」を返上するための野菜料理を、既習事項の「ゆでる」「いためる」の技能を使って考える力。また、試し調理を行い、毎日の食事の視点からよりよいものになるように自分なりに改善していく力。

## 2 実践の概要

家庭科では、思考力・判断力・表現力を「生活を創意工夫する力」ととらえる。そこで、**新聞記事で学習意欲を高めて献立作りにつなぎ、野菜がたっぷりとれる野菜料理の一品を考え、試し調理を行ってよりよい料理へと改善する活動へと展開する題材構成により、学んだことを実生活に生かす、「生活を創意工夫する力」を高めようと考えた。**そのため、教科書の調理例は扱わず、既習の調理技能を活用したオリジナル調理を各自に工夫させた。本時は、学習問題「試し調理を通してよりよい改善案を考えること」を追究し、他者と交流することで同じ食材でも食品の組み合わせ、味付けの違いでたくさんの料理ができることに気付かせることができた。

## 3 手立ての具体

以下のように、キャベツかほうれん草のいずれかを選択し、他の食品を組み合わせた野菜料理を個々に考えさせた。その後、ペアで交互に試し調理を行い、全体交流し、自分が考えた野菜料理がよりよい料理になるように修正するように展開した。

- ① 既習事項の確認。（「ゆでる」「いためる」調理）
- ② 自分が考えた、県民におすすめする野菜料理の試し調理を個人で行った。自分一人で取り組むことで、計画で見落とししていたことや調理過程で気をつけること、既習の応用のポイント等に気付くことができた。
- ③ **「1品不足する献立の写真シート」に作った野菜料理を乗せてタブレット端末で撮影し、一食分の献立を具体的にイメージした。**その後、交流する視点（組合せ・味・盛り付け）を確認し、その視点で**試食し合い、アドバイスカードに記入した。**
- ④ 作ったり試食したりしての反省や、友だちのアドバイスをもち、よりよい調理になる修正案を個々に考え、家庭での実践につないでいった。



【自分の野菜料理を写真シートに乗せた一食分】

学 習 活 動	思考力・判断力・表現力などを高める教師の支援
3 おすすめする野菜料理の試し調理をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基本の野菜に加える食品を3品までとし、色どりなどを考えやすいようにする。</li> <li>○ どうしてそのような食材を使うのか、そのような調理方法をするのか理由を書かせることで、工夫したことがはっきりするようにする。</li> <li>○ 家庭で一人でも実践できるように、2人で試し調理に取り組むようにする。</li> <li>○ レシピ集作りのため、試しづくりをした料理を写真にとるように促す。</li> </ul>
4 おすすめする野菜料理の特徴を紹介し、試食する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 切り方、組み合わせる食品、味付けの仕方など交流の視点を設ける。</li> <li>○ 同じ野菜を使って作ったグループの試し調理を試食し、感想やアドバイスをする場を設定する。また、他のグループとも交流する場を設定する。</li> </ul>
5 他のグループを参考に修正案を考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 感想や班の工夫、よくできていたところなどをワークシートにまとめ、改善案を考えやすくする。</li> </ul>

【本時の学習指導案(略案)】

## 4 手立ての効果

既習事項を活用して自分なりの工夫で野菜料理を考えさせるために、導入では、ゆでたりいためたりしたときの味の変化について比較実験をさせた。自分なりに工夫した野菜料理の試し調理をすることで、「組み合わせる野菜や味付けや調理方法を少し変えるだけで、同じキャベツが全く違う料理になる」「毎日キャベツを食べても飽きない」などに気付くことができた。学んだ基礎・基本を活用して、自分なりの工夫で生活改善ができることを、体験を通して学べた。それが自信につながり、生活場面で生かそう、生活をよりよくしようとする実践意欲が高まった。

## 5 若い先生のためのワンポイントアドバイス

学んだ基礎・基本と実生活をつないで考えられるようにすること、生活をよりよくしようとするための工夫を考えることが、考える力を育むことにつながる。そのためには、思考したことと技能をつなぐ指導が大切になる。

## さぬきの授業 基礎・基本Ⅱ-1 子どもの課題意識を高める指導 「子どもが課題を見付けられるようにする」とは？ -自然事象を丹念に観察する-

### 小学校第5学年 理科 単元「魚のたんじょう」

#### 1 本実践で身に付けさせたい「考える力」

自然事象に触れて、自らが半知半解であることを知り、科学的に自然事象を解明していこうとする力。

#### 2 実践の概要

学習問題「メダカは何を食べているのだろうか」を追究した。実際にメダカが水中で何かを食べている様子を観察したことをもとに、水中の小さな生き物について調べる必要性を高め、目に見えない小さな生き物の世界についての課題意識を高めた。

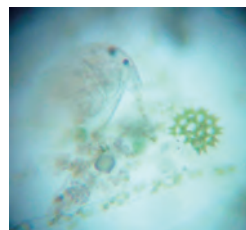
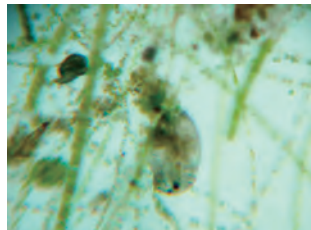
#### 3 手立ての具体

具体的には、スコープを使って、メダカが水中で何かを食べている様子を拡大映像で観察させ、水中で動いているものを顕微鏡で観察させた。

- ① ビーカーの中のメダカに池の水をスポイトで入れ、メダカの様子をスコープで拡大して見る。
- ② メダカのいない真水を入れたビーカーに池の水をスポイトで入れ、動いているものがあることを確認させる。
- ③ 池の水を顕微鏡で観察し、水の中の小さな生き物を調べさせる。また、予め同じ水から採取した水中の小さな生き物の写真を提示する。
- ④ 水の中の小さな生き物をメダカに与え、食べることを確認させる。



【拡大映像】



【デジタルカメラで撮影した水の中の小さな生き物】

#### 4 手立ての効果

教科書では、メダカを入れたビーカーにスポイトで池の水を入れて食べる様子を観察するようになっているが、それを拡大映像で見せることで、メダカの様子がよく分かった。また、真水に池の水を入れると、目で見ただけでは分からないが、拡大映像で見ると、動いているものが確認できるので、生き物がいることが実感でき、子どもの「調べたい」という意欲と「何だろう」という課題意識が高まった。

そして、子どもが観察する池の水で見られる小さな生き物を予めデジタルカメラで撮影しておくことで、子どもの観察の手がかりになった。また、実際に見られるものは、教科書と違って、形が崩れていたり、見る角度で違って見えたりしているので、様々な角度から撮影しておくことで、立体的な生き物として捉えることができた。子どもたちは、小さな生き物の世界に感動し、水中での食物連鎖について考えられていた。

#### 5 若い先生のためのワンポイントアドバイス

理科学習では、子どもと自然事象との出会いが大切である。自然に対する見方や考え方が、広まり深まるような教材教具や学習活動の工夫を心がける必要がある。

さぬきの授業 基礎・基本Ⅱ-1 子どもの課題意識を高める指導  
「子どもが課題を見付けられるようにする」とは？－社会事象を丹念に観察する－

小学校第5学年 社会 単元「日本の水産業」

1 本実践で身に付けさせたい「考える力」

日本の水産物消費量が外国に比べ多い理由を、生産者、消費者、環境の3つの視点から予想し、調べる計画を立てる力

2 実践の概要

学習問題「どうして、日本人は水産物をたくさん食べているのだろう」を追究した。従来、消費量を見て考えさせていたが、**あえて事実を知らせる前に予想させたり、外国と比較させたり、給食の献立調べを取り入れたりすることにより、課題意識を高めよう**と考えた。

3 手立ての具体

具体的には、次のように展開し、子どもとともに学習問題をつくるようにした。

- ① 日本の1年間の水産物消費量を予想させる。
- ② 外国と比較し、日本が多く消費している事実に気付かせる。その際、**日本の消費量をかくしておき、簡単に予想させた上で提示すること**で、消費量の多さを際立たせる。

学習活動	期待する子どもの反応	支援活動
1 給食の献立や「水産物消費量」のグラフを基に日本人の水産物消費量を調べ、学習問題をつくる。 ・身近な食事から ・統計資料から	・給食のメニューを見ると、毎日のように水産物を食べています。 ・昨日も、みそ汁の中に海草が入っていました。 ・他の国に比べて日本は水産物の消費量が多いです。 ・インドの16倍、アメリカの3倍も食べているなんてすごい。 ・どうして、そんなに食べているの、	○ほぼ毎日、食べていることに気付かせるために、給食の献立表の中にある水産物に印を付けさせる。 ○水産物がどうか分からないものについては、教師が補説する。 ○日本の消費量の多さに気付かせるために、提示する前に他の国の消費量から予想させておき、日本の一人当たりの年間消費量の多さ(1日約180g)に驚きをもたせる。
<b>どうして、日本人は、水産物をたくさん食べているのだろう</b>		
2 外国に比べ、日本の水産物の消費量が多い理由を予想し、話し合う。 (1) 予想の手がかりを話し合	・日本の周りの海のことを考えればいいと思います。 ・海産や潮目のことから考えればいい	○予想がノートに書けそうにない子どもには、進んで問いかけるよう促す。 ○社会科の学習では、予想の手がかりは前の時間までに学んだことや自分たちの生活経験から予想させるように促す。

【本時の指導案の一部】

- ③ 給食の献立表の中で、水産物に○を付けさせ、その頻度の多さに気付かせる。
- ④ 同じ島国である台湾の給食献立表と比較させ、日本の消費回数の多さを再確認する。



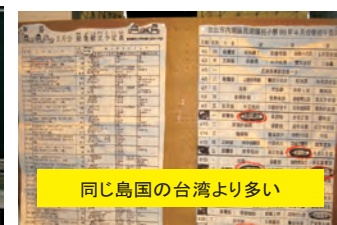
【①日本はどれくらい水産物を食べていると思う?】



【②外国と比べて何が分かりますか?】

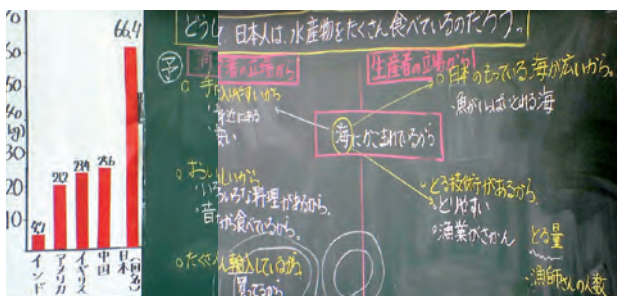


【③給食献立表の中で水産物に○を付けてみよう】



【④同じ島国の台湾の献立と比べてどうですか?】

4 手立ての効果



【本実践の板書】

あえて、日本の消費量を予想させてから提示したことにより、その消費量の多さについて子どもたちに驚きをもたせることができた。その驚きは「なぜだろう」という問いの必然性につながった。

また、献立調べによりさらに水産物やその量の具体が明確になり、調べる見通しを立てることができた。

5 若い先生のためのワンポイントアドバイス

注目させたい事実を丹念に見つめさせることが問題意識につながる。そのためには、注目させたい箇所をあえて隠しておき、あとから提示することで、思考を焦点化することができる。

## さぬきの授業 基礎・基本Ⅱ-1 子どもの課題意識を高める指導 「子どもが課題を見付けられるようにする」とは？—新たな視点から振り返る—

### 中学校第2学年 技術・家庭 単元「日常食の調理と地域の食文化」

#### 1 本実践で身に付けたい「考える力」

調理と環境のかかわりについて関心をもち、自分や家族の生活を見直して課題を発見し、環境に配慮した消費生活を実践するために工夫する力

#### 2 実践の概要

本時の授業は、「B食生活と自立」と「D身近な消費生活と環境」との融合題材である。1回目の調理実習を行った後、2回目の調理実習に向けて環境に配慮した調理計画を立てる授業である。学習課題を「環境に配慮した調理の計画を立てよう」とし、導入で調べてきた家庭で行っている環境に配慮した調理の工夫を発表させた。その上で、前時に行った調理実習の様子をVTRや資料で示し、自分たちの実習を環境という視点で振り返って課題を見付けさせることで、課題意識を高めた。そして、自分たちにできる環境に配慮した工夫点を話し合い、まとめさせた。

#### 3 手立ての具体

##### ① 家庭での事前調査

家族や身近な人にインタビューしたり、インターネットなどで調べたりして家庭実践への興味や関心を高めて学習に取り組みさせた。

##### ② 前時の学習の振り返り

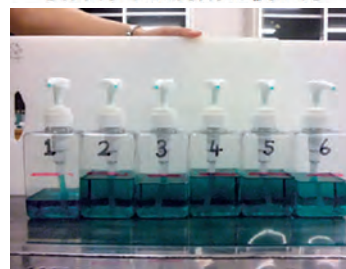
前時の調理実習の様子をビデオカメラで撮影しておき、特に気になった洗剤、水、生ごみの様子を見せ、各班の取り組みを振り返らせた。その後環境に与える影響について資料をもとに問題提起し、課題意識を持たせた。

2 班の生ゴミ 113g



【各班の生ごみの重量を量る】

後片付けの洗剤の使い方



【洗剤の使用量の比較】

##### ③ 話し合い活動

各班の課題を明確にした後、次回の調理実習に向け自分たちができる工夫について、事前調査や資料を基に話し合いを行わせた。その意見をホワイトボードに記入した後、全体で発表し、意見を交流することによって考えを深めることができた。



【話し合いの様子】

#### 4 手立ての効果

前時の調理実習の様子を映像で確認したことで、実際に活動したことの振り返りがしっかりとできた。また、自分の班の様子が映ると自然と前時の調理実習のことをつぶやき話し合っている様子が見られ、各自の課題をきちんと掴むことができていた。

さらに、話し合い活動によって様々な意見を交流させることができ、自分たちの考えを修正するなどさらに考えを深めることができた。

#### 5 若い先生のためのワンポイントアドバイス

子どもの実際の生活の中から問題点を見つけ、課題意識をいかにもたせるかが大切である。それが自分の生活を改善しようとする意欲や態度につながっていくと思われる。

## さぬきの授業 基礎・基本Ⅱ-1 子どもの課題意識を高める指導 「課題解決の道筋を明らかにする」とは？－考える手がかりを提示する－

中学校第3学年 美術 題材「美術の起源と現代の美術～オニノコ瓦プロジェクト～」

### 1 本実践で身に付けさせたい「考える力」

鑑賞学習によって新たな視点を見つけ、心豊かな表現の構想を練る力

### 2 実践の概要

古代の造形「鬼瓦」を現代的な解釈で表現する学習を行った。先人の造形や他分野の造形について学んだことを基に作品の発想を広げるなど、鑑賞と表現を往復しながら学習を進めた。

### 3 手立ての具体

2パターンの鑑賞学習（①先人の造形作品②他分野の造形作品）を設定し、発想を広げられるような手立てを試みた。

#### ① 先人の造形作品の鑑賞

**先人の造形作品を鑑賞し、そこから発想を広げる。**

日本各地の鬼瓦のスライドによる鑑賞と、実物の讃岐装飾瓦を鑑賞し、特徴を話し合った。

#### ② 他分野の造形作品の鑑賞

3つの分野の作品鑑賞を行った。仏像、世界の仮面、現代美術作品である。異文化の多様な創造性に触れることで、発想を広げながらアイデアを練り、スケッチを完成させる活動を行った。

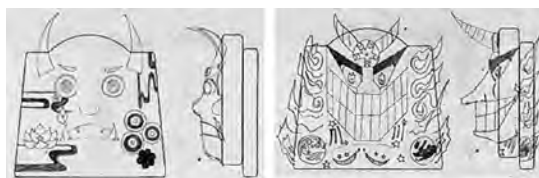
仏像の中でも天部は、鬼瓦について造形上の特徴がよく似ているものも多い。**世界の仮面と現代美術作品は、鬼瓦について全く別世界の様々な表情や造形が、発想を刺激し、作品の自由度が高められると考えて選定した。**



【①先人の造形作品「讃岐装飾瓦」の鑑賞】



【②他分野の造形作品「世界の仮面」の鑑賞】



【アイデアスケッチ】

### 4 手立ての効果

子どもたちは意欲的に制作に取り組み、それぞれの想いのこもった多様な作品を仕上げることができた。ただ自由に描かせただけでは多様性は生まれにくい。発想を刺激するための鑑賞学習が有効であったと捉えている。アイデアスケッチや作品からは、子どもがそれぞれ自分の想いを元に、イメージや発想を広げ、こだわりを持ったデザインを構想できていたことが見てとれた。



【作品制作風景】



【作品展示風景①】



【作品展示風景②】

### 5 若い先生のためのワンポイントアドバイス

子どもの「発想・構想の能力」をどのように育てていくのか、美術科教育の課題だと感じている。題材によって発想の広げ方は様々だが、子どもの経験を大切に、いろいろな手立てを考えて思考することの楽しさを学べるよう実践してほしい。

### Ⅲ 自分の考えを表現する場の設定

「さぬきの授業 基礎・基本」には、「自分の考えを表現する場の設定」について次のように述べられています。

#### 自分の考えを表現する場の設定

- ☆ 表現方法（ノートの使い方等）を具体的に指導する
  - 何をどこに書くのかを指導する
  - 変容が分かるように、記号などのルールを決める
- ☆ 振り返り
  - 個に応じてヒントカードや教具などを渡す
  - 前時までの表現物を振り返らせる
  - 今までに学習した方法が使えないかを振り返らせる
  - 自分の得意な方法で表現させる

これらを基にした実践では、次のようなことが明らかになってきました。

#### 「表現方法を具体的に指導する」とは？

次のような働きかけによって、子どもが自分の考えを表現しようとする効果が見られました。

- 思考ツールを活用するモデルを示し、思考ツールでよさと問題点に整理する
- 板書とノートやワークシートを拡大したものを提示し、連動させる
- 拡大提示機によって、何をどこに書くのかを丁寧に指導する

#### 「振り返り」とは？

次のような働きかけによって、表現が苦手な子どもも自分の考えを表現しようとする効果が見られました。

- オノマトペなど、自分の得意な（できる）方法で表現させてみる
- 映像やデータで、客観的に自分を振り返らせる
- 技能を簡略化したり、ルールや道具を簡素化したりすることで、振り返って考えることに意識を焦点化する

さらに、実践を通して、新たに「選択の場」を設けることで、自分の考えをもたせることが可能であることがわかってきました。

自分の考えを表現させるためには、まず自分の考えをもたせることが前提となります。選択の場は、自分の考えを創ることに有効でした。選択の場では、子どもはこれまでのあらゆる学びを活用して判断することになります。このことが、自分の考えを創造することにつながるようです。

#### 「選択の場」とは？

- 相互評価を通して選択する場が、個々の考えを創る

ここでは、■の項目について、実践事例を紹介します。

## さぬきの授業 基礎・基本Ⅱ-1 自分の考えを表現する場の設定 「表現方法を具体的に指導する」とは？－思考ツールでよさと問題点に整理－

小学校第5学年 総合的な学習の時間 単元「故郷から発信！〇小農業プロジェクト」

### 1 本実践で身に付けさせたい「考える力」

田植え体験を通して気付いたことを、よさと問題点の2つの視点で整理・分析し、根拠や理由を明らかにして判断する力

### 2 実践の概要

田植え体験を通して、農業の実態を知った子どもたちが**思考ツールを活用して農業のよさや問題点について話し合うこと**で、「地域の農業をどうしていくべきか」について、課題意識を顕在化させ、今後の学習の見通しを持った。

### 3 手立ての具体

① 子どもの意識（気付き、思いや願い）を**事前に把握する**。

② 個々の気付きをカードに書き出すことで可視化を促す。

③ 話し合いの目的や論点を確認する。

田植え体験で見付けたことを「よさ」と「問題点」という論点で話し合うことを通して、小豆島の農業の課題を明らかにするという目的を確認した。

④ 話し合う目的にあった思考ツール（本時は「軸を立てたシート」）を用意する。

見方によって、よさと問題点のどちらにも考えられるものもあるので、**軸を立てたシートを用意した**。同じ物は重ねるなどして分類・整理していくことを確認した。

⑤ 話し合ったことを全体で共有できるようにする。

グループで話し合っ整理した、よさと問題点を全体で話し合う際には、共通点や相違点を見出せるよう、板書に整理した。子どもたちは他のグループの発表を聞いて、共通点や相違点を見付けながら、**農業をしている人は大変な苦勞をしていることに気付くことができた**。



二人の教師のやりとりを通して、思考ツールを使った話し合い方を確認した。



よさとも、問題点とも考えられるので、この辺りかな・・・。

### 4 手立ての効果

「コンバインを使うと便利」「みんなで植えると田植えは楽しい」などのよいところがある反面、「手作業は重労働である」「時間がかかる」などの問題点が見付かった。これらの問題点から、「高齢者が農業をしやすい環境作りをすすめる必要がある」という課題意識が顕在化され、今後の学習の見通しをもつことができた。

### 5 若い先生のためのワンポイントアドバイス

思考ツールを扱う際には、扱うことが目的となってしまうはいけない。自分の考えを表現しやすくできるよう、一人ひとりの考えが価値付けられたり、話し合いによって問題解決の見通しにつながったりする話し合いの目的に応じた思考ツールを用意することが大切である。



小学校第3学年 音楽 単元「音をつなげて楽しもう」

1 本実践で身に付けさせたい「考える力」

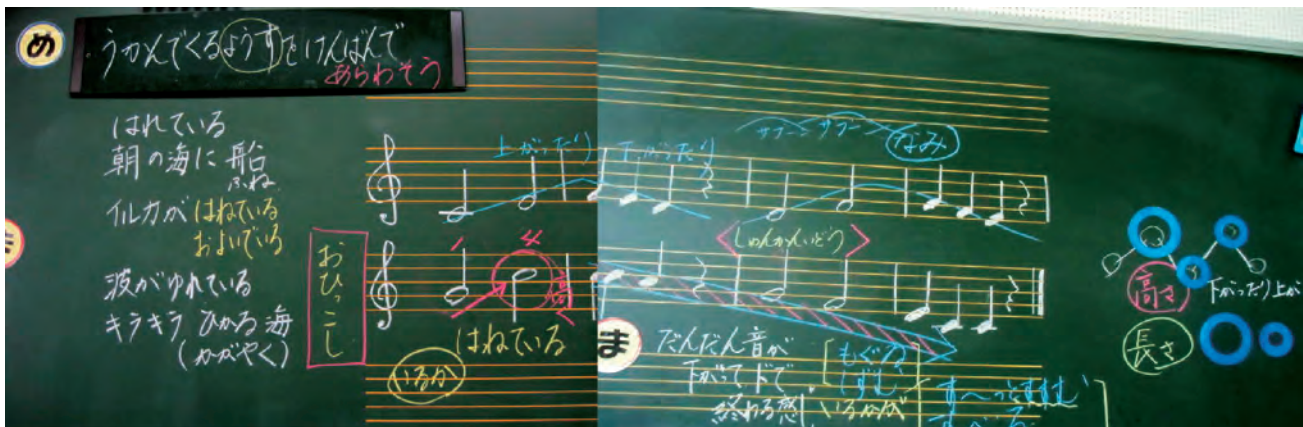
歌詞づくりを通して、思いや意図をもって音をつなぎ、音楽を形づくっている要素を感じ取ることから、できあがった旋律の特徴を伝えることができる力

2 実践の概要

「イメージに合う音の動きになるように音をつなごう」という課題のもと、旋律づくりへの思いや意図をまとめる活動を設定した。その手立てとして歌詞づくりに取り組みせたり、即興表現を取り入れた。また、対照的な異なる特徴の旋律をとりあげ、演奏を聴き比べたり友達の意図を聞き合ったりした。

3 手立ての具体

具体的には次のように展開し、つながった音の動きに意味をもたせるようにした。



【情景と音をつなぐ板書】

- ① 楽曲から浮かんでくるイルカや波の様子を想像させ、様子を表すオノマトペを使って歌詞をつくらせる。
- ② 歌詞の抑揚が音の動きに合うかを歌いながら確かめさせ、最後の2小節を仕上げる。
- ③ 即興でつないだ鍵盤奏を弾き比べたり聴き比べたりさせて、音楽の感じや様子が変わってくることを体感させる。
- ④ 自分のつくった旋律の特徴や思いや意図をまとめ、発表させる。



【本時のワークシート】

4 手立ての効果

即興表現でリレー演奏を継続したので、音のつながりやまとまりを意識した発言が聞かれるようになった。音の進行や終わり方に、自分の思いや意図をもって意味付けができる子どもも増えてきた。また、オノマトペを用いた歌詞づくりをすることによって、旋律の動きやエネルギーを感じとることができた。

5 若い先生のためのワンポイントアドバイス

旋律づくりの導入として、絵譜やイラストを効果的に用いてイメージを豊かにふくらませ音の動きに耳を傾けることのできる教材である。正誤よりも、子どもの感受とその意味や意図を読み取り、整理したり共感したりすることが必要。その際に、ことばで説明し合ったことを「音」で吟味する授業を組み立てていきたい。

## さぬきの授業 基礎・基本Ⅱ-1 自分の考えを表現する場の設定

### 「映像やデータで自分を振り返る」とは？－技能の簡略化・ルールの簡素化－

#### 中学校第2学年 保健体育 単元 球技「ゴール型（フットサル）」

##### 1 本実践で身に付けさせたい「考える力」

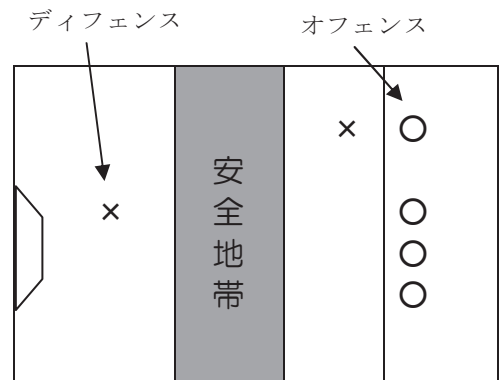
チームの戦術において自分の役割を理解し、状況に応じた判断を行い、シュートにつながる有効な空間を考える力

##### 2 実践の概要

子どもに習得させたい**最低限必要な技能を「インサイドキック」と「トラップ」の2つに絞った。**また**ボールやルールの工夫を行い、ボールをもたない動きと空間を考えることに焦点をあてやすくした。**全員がシュートを決める喜びを保障するために、ゴールを1つにし、時間制の攻守交代ゲームにし、戦術を遂行するための状況判断力や思考力を深めることに重点を置いて指導を行った。

##### 3 手立ての具体

- ① 自分やチームの考えを動きとして表現しやすくなるように**ルールや用具の工夫**を行った。
- ② **攻撃回数、シュート数、ゴール数をデータにして自分のチームの攻撃の状況を客観的に見ることができるようにし、話し合う時の視点の一つとさせた。**
- ③ **過去の試合映像を振り返り、空間に走り込んだり、空間をうまく利用したりして、シュートまで結びつけたシーンから、有効な動き（攻撃）を分析させた。「縦・横のパス」がシュートにつながる空間を有効に作り出せることに注目させ、作戦を再考させた。**
- ④ チームの勝利にこだわらせながらも、そこから気付く有効な攻撃（空間をうまく利用し、シュートまで素早く結びつけた攻撃）を振り返らせた。



【ルールの工夫例】

##### 4 手立ての効果

「考えること」を効果的に進めるために、ゲームを分析する視点を明確にした。作戦ボードやVTRなどを活用して視覚的に自分達の状況を把握しやすしたり、男女ペアチームで観察しあったりすることで、自分達の作戦を再考し、ノーマークをいかに作るかにこだわるなど、ゲームの質に変化が現れた。単元序盤では、空間に気付かず何度もパスカットをされていたチームが、空間をうまく使い、巧みにパスをつなぎながらシュートまでいけるようになった。データ（攻撃回数・シュート数）からもその変容が分かり、さらに有効な攻撃を考えていくことができるようになった。また、話し合う場面では、「空間」や「相手の動き」など、重要なワードを用いながら話し合う子どもが増えた。



【ゲームの様子】

##### 5 若い先生のためのワンポイントアドバイス

その教材で何を学ばせたいのか、そのスポーツの本来の面白さは何かを、まず教師自身が考えていくことが大切ではないでしょうか。何をどのように学ばせるのか、そのためにどう工夫するのかなどを追究していくことで、子どもたちの学習に深まりが出てきます。保健体育学習では自分の考えを表現するものは「体」「動き」「言葉」など様々ですが、教師の手立てによって子どもの考える力を高めることでその表現力も変わってくると思います。

さぬきの授業 基礎・基本Ⅱ-1 自分の考えを表現する場の設定  
「選択の場が個々の考えを創る」とは？ ー互いの俳句を相互評価するー

中学校第3学年 国語 単元「俳句を作って句会を開こう」

1 本実践で身に付けさせたい「考える力」

自分が選んだ俳句の良さを「～だから～である」と理由付けしたり、友達の選んだ理由との「類似点」や「相違点」を確かめながら聞いたりする力

2 実践の概要

学習課題「俳句を作って、句会を開こう」のもと、イメージマップを作ったり、選句の理由を全員発表したりすることにより、参加型の授業を目指した。

3 手立ての具体

■ 第一次「俳句を作る」

① 俳句のルールの確認

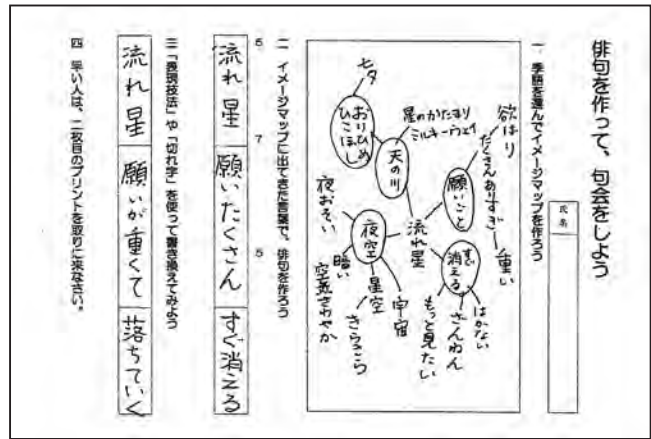
「俳句は、お寿司と一緒に。しゃりは『五、七、五』、ネタは『季語』、わさびは『表現』です。おいしいお寿司を、作りましょうね。」

② 国語便覧を参考にして、季語を決める。

③ イメージマップを作る。

④ 「五、七、五」の枠に書き込む。

⑤ 表現技法や、切れ字を盛り込む。



【イメージマップのあるワークシート】

■ 第二次「句会を開く」

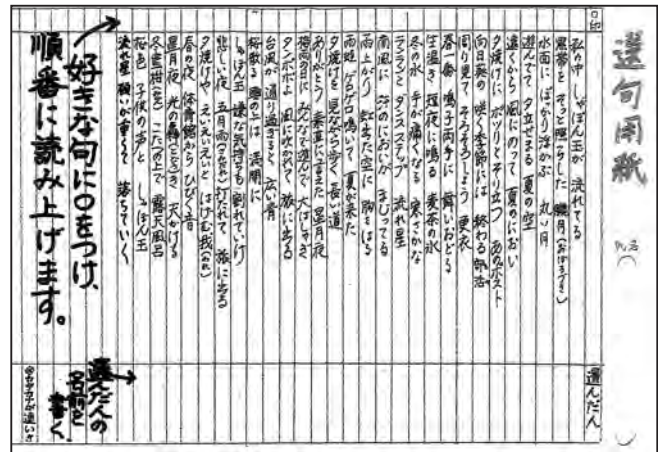
① 選句用紙（教師作成：資料）を配布する。

② 一番好きな俳句に○をつけ、選んだ理由を書く。

③ 座席の順番に、自分の選んだ俳句を音読し、俳句の良さを述べる。聞き手は、選ばれた俳句に「正」の字を書いていく。

④ 学年主任と担任の選んだ「俳句とその理由」を聞く。

⑤ 上位3名を、表彰する。「よければ、手を挙げて作者を教えてください。まず、金賞の俳句を書いた人？…」



【選句用紙】

4 手立ての効果

■ 教師が動いて子どもが動かない授業から、子どもが動き、教師は見守る授業となった。発言に消極的な子どもも、自信をもって表現できる内容であり、聞き手も興味をもってよく聞けていた。

■ 国語科以外の2名の教師の「講評」を聞くことにより、俳句を味わう視点を広げることができた。

5 若い先生のためのワンポイントアドバイス

3年生では毎回やっている実践だが、いつも子どもの興味・関心は高い。国語の苦手な子どもが入選することもあり、国語の学習への意欲が向上することがよくある。

## Ⅳ 言語活動を充実させる指導

「さめきの授業 基礎・基本」では、「言語活動の充実」について、次のように述べています。

### 言語活動の充実のために

- ☆ 身に付けさせたい思考力は、どのような力かを見極める
  - 比較思考ならば、事象間の異同に目を付ける
  - 因果関係をとらえる関係付ける思考ならば、原因と結果を明確にする
  - 条件制御の思考ならば、条件を変えながら事象間の関係の変化を表などに整理する

これらを基にした実践では、次のようなことが明らかになってきました。

### 「身に着けさせたい思考力を見極める」とは？

次のように、身に付けさせたい思考力を見極めることによって、効果的な働きかけが見えてきました。

- 比較思考は、事象間の異同に目を付ける  
観点を揃えることによって、比べやすくなる。
- 仲間分けする思考は、共通点に着眼する  
分類整理する際は、情報を移動できるK J法が有効である。
- 全体と部分に関係付ける思考は、図を対比する  
2つのテープ図を対比させ、図の説明を書き込ませる
- 条件による結果の違いを比較する思考は、図表に整理する  
樹形図を使って情報を整理させる
- 相手を想う思考力は、シミュレーションが有効  
道案内の場面をシミュレーションすると、定型文+ $\alpha$ の表現が期待できる。
- 比較・分類思考は、特色を明らかにすることを目的とする
- 関係付ける思考は、意味や価値を捉えることを目的とする

ここでは、■の項目について、実践事例を紹介します。

# さぬきの授業 基礎・基本Ⅱ-1 言語活動を充実させる指導 「比較思考は、異同に目を付ける」とは？—観点を揃えるから比べられる—

## 小学校第1学年 国語 単元「りっちゃんサラダのレシピをつくってつたえよう」

### 1 本実践で身に付けさせたい「考える力」

おいしくて元気の出るサラダを作るため、「誰が」「どんなことを教えてくれたか」各場面の様子の変化をとらえ、その様子を豊かに想像しながら読む力

### 2 実践の概要

単元を貫く言語活動を「レシピ作り」に設定し、学習問題「レシピにかくことを調べて、りっちゃんサラダのつくりかたをつたえよう」を追究した。**付けたい力を確実に身に付け、子どもたちの主体的な思考・判断が活かされる課題解決の過程となる単元全体を通した言語活動を吟味することにより、子ども自身が見通しをもって主体的に考え、楽しく学ぶことができるようにした。**

### 3 手立ての具体

**付けたいかにぴったりの言語活動を選定する要件を、次のように考えた。**

- 付けたい力と設定する言語活動を遂行する力がぴったり合うこと
- 生きて働く国語力を身に付けることができるように子どもの日常生活で活用できる身近な言語活動や読書活動に結び付く言語活動であること
- 作品に対する子どもの意識や願いを重視すること
- 見通しをもち、子どもが主体的に課題解決できる学習であること

**各場面の読み取りの観点は、レシピに表す項目とした。既習場面と比べることにより、省略されている文や言葉に気付かせ、動作化する等、楽しく想像させた。**

【ノートに書いた学習計画】

四	しらべたことをレシピにまでまとめる。	「だれがおしえてくれたか」	「どうするか」	「どうしてか」	「どうするか」	「どうしてか」	「どうするか」	「どうしてか」
三	「だれがおしえてくれたか」	「どうするか」	「どうしてか」	「どうするか」	「どうしてか」	「どうするか」	「どうしてか」	「どうするか」
二	「だれがおしえてくれたか」	「どうするか」	「どうしてか」	「どうするか」	「どうしてか」	「どうするか」	「どうしてか」	「どうするか」
一	「だれがおしえてくれたか」	「どうするか」	「どうしてか」	「どうするか」	「どうしてか」	「どうするか」	「どうしてか」	「どうするか」

【場面の読み取りノート】

六	「だれがおしえてくれたか」	「どうするか」	「どうしてか」	「どうするか」	「どうしてか」	「どうするか」	「どうしてか」	「どうするか」	「どうしてか」
五	「だれがおしえてくれたか」	「どうするか」	「どうしてか」	「どうするか」	「どうしてか」	「どうするか」	「どうしてか」	「どうするか」	「どうしてか」
四	「だれがおしえてくれたか」	「どうするか」	「どうしてか」	「どうするか」	「どうしてか」	「どうするか」	「どうしてか」	「どうするか」	「どうしてか」
三	「だれがおしえてくれたか」	「どうするか」	「どうしてか」	「どうするか」	「どうしてか」	「どうするか」	「どうしてか」	「どうするか」	「どうしてか」
二	「だれがおしえてくれたか」	「どうするか」	「どうしてか」	「どうするか」	「どうしてか」	「どうするか」	「どうしてか」	「どうするか」	「どうしてか」
一	「だれがおしえてくれたか」	「どうするか」	「どうしてか」	「どうするか」	「どうしてか」	「どうするか」	「どうしてか」	「どうするか」	「どうしてか」

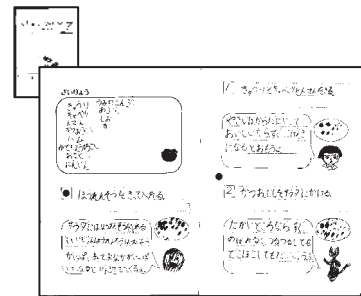
図書室で調べた料理の本には、材料や順番、どうするか、こつなどが書いてある。りっちゃんサラダを作るには、材料や順番、どうするか、こつを「サラダでげんき」をしっかりと読んで調べて、レシピに表すといいよ。できあがり図もあるといいな。

おいしくて元気の出るりっちゃんサラダを作りたい、食べてみたいな。レシピを作るとおうちの人にも教えてあげられるよ。

馬は、にんじんを入れるといいことを教えてくれたよ。でも、りっちゃんが「どうしたか」は書いていないなあ。給食で食べたサラダのにんじんは、細く切っていたよ。生のにんじんは、固くて食べにくいしおいしくないよ。

(教材文に付け加えた表現)  
**りっちゃんは、にんじんをほそぎりにして入れました。**

### 4 手立ての効果



「レシピ作り」は、レシピに必要な項目(順序・材料・どうするか・いいこと・こつ・教えてくれた人)とそれを表すために必要な情報を読み取ることがぴったり合って、子どもたちの主体的な学習を支える有効な言語活動であった。各場面の読み(ノートに書いた自分の考え)がレシピの1ページにリンクするので、叙述に即して言葉を正しく理解したり言葉のイメージを豊かに想像したりしながらお話の世界を楽しみ、学習を楽しんでいた。1時間1時間の読みが充実したため、りっちゃんのお母さんがたちまち元気になった理由を考える際も、自然に様々な場面を想起し物語全体をつないで考えられた。

【りっちゃんサラダのレシピの一部】

### 5 若い先生のためのワンポイントアドバイス

適切な言語活動を設定するためには、教材文とともに言語活動自体の教材研究が必要である。そして、教師自身が具体物に表現しながら、どんな力をどう働かせるか子どもの思考過程を追い、言語活動の実際を確認すると分かりやすい。

## さぬきの授業 基礎・基本Ⅱ-1 言語活動を充実させる指導 「仲間分けする思考は共通点に着眼」とは？ ー分類整理は、KJ法でー

### 小学校第5学年体育（保健）単元「心も体も元気モリモリ！（心の健康）」

#### 1 本実践で身に付けさせたい「考える力」

心の健康について、これまでの生活経験や学習活動を基に、課題を解決する力

#### 2 実践の概要

「不安や悩みについて、自分の対処法を見つけ、心を元気UPさせよう」という学習問題を設定し、様々な不安や悩みの事例を挙げ、それぞれの事例にあった対処法をグループで話し合った。不安や悩みは人によって異なるが、その対処法には共通点が見られ、その共通点は、自分の悩みへの対処法としても活用できることを知ることができた。

#### 3 手立ての具体

具体的には、次のようなことに留意して授業を展開した。

##### ① より多くの考えを引き出すための工夫

悩みや不安への対処法について話し合う活動では、**ブレインストーミング**を取り入れた。その際、これまで自分が経験したことを基にしながら、対処法を表出させた。自分の書いた対処法が友達に受け入れられたことで、自己有用感が高まるだけでなく、友達の様々な対処法も知ることができた。



【より多くの考えを出し合う】

##### ② 友達の考えと自分の考えを比較

**ブレインストーミングにより出された意見を、KJ法を用いて整理した。**友達と自分との対処法の共通点や異なる点を見つけ出すことで、話し合いが活性化するとともに、子どもたち一人一人が、自分が経験したことをしっかりと考えることができた。



【対処法の共通点を見つける】

##### ③ 子どもの意見の価値付け

学習のまとめの段階で、悩みに対して子ども自身が多くの対処法を見つけ出したことを称賛した。また、**スクールカウンセラーを活用し、より専門的な立場から、自分たちの考えが正しかったという価値付けを行うこと**で、子どもたちは喜びと達成感を味わうことができた。



【カウンセラーのアドバイス】

#### 4 手立ての効果

グループによる話し合いでは、自分の発言する機会を保障することで、意見交流が活発になった。

また、教師やスクールカウンセラー、友達からの称賛を得ることにより、自信をもって自分の考えを伝えることができるようになった。

#### 5 若い先生のためのワンポイントアドバイス

言語活動を充実させるためには、グループ交流や全体交流など様々な交流の場を設定することが大切である。

また、自分の考えを安心して表現できる学級の支持的風土も大切である。

# さぬきの授業 基礎・基本Ⅱ-1 言語活動を充実させる指導 「全体と部分の関係付ける思考は図を対比」とは？ーテープ図に書き込みー

## 小学校第2学年 算数 単元「かくれた数はいくつ」

### 1 本実践で身に付けさせたい「考える力」

「問題文と図と式」を関係付けながら、加法と減法の相互関係を捉える力

### 2 実践の概要

本時の学習問題は、「どちらの式がお話に合っているのかテープ図にかいて調べよう」とした。  
**問題文から考えた式が合っているかを調べるために、数量関係を表したテープ図を使って話し合う活動**を行った。話し合いでは数量関係の異なる2種類のテープ図を取り上げ、疑問な点を話し合うことを通して、数量関係を的確に表現したテープ図や式がどちらなのかを判断していった。

従来は、問題文→テープ図→立式という学習過程を踏むが、それについては、第1時・2時で行い、テープ図が演算決定の道具となる経験をさせておくようにした。その既習を生かし、本時は、**問題文→立式→テープ図→立式の見直しという思考をさせる**ことで、演算決定や説明にテープ図が有効であることをより実感させたいと考えた。

### 3 手立ての具体

#### ① 問題を読んで考えた式のずれを顕在化

本時の学習問題を設定するために、まず問題文から立式させ、お互いの考えのずれや違いに気付かせ、「どちらが正しいのか調べたい」という思いをもてるようにした。

#### ② 問題場面の数量関係を可視化したテープ図を使った話し合い活動

どちらの式が正しいのかを考えるために、各自がテープ図に言葉や数を書き加え、問題場面の数量関係を可視化していった。**テープ図を書き込み形式にする**ことで、問題文に示された3要素の数量関係を的確に表現しているのはどちらなのかに焦点化した話し合いができるようにした。話し合いでは、**全体と部分の関係が異なる2種類のテープ図⑧と⑨を提示し、「もし、食べなかったら？」と問いかけ、はじめの数はのこりの数より多いのか、少ないのかを考えさせた**。さらに、図と立式の関係に気付かせるために、**図の求めたいところに赤色を付け、演算決定とのつながりについて考えさせる場を設定した**。

いちごを もっています。  
そのうち 5こ食べたので、  
のこりは、13こに なりました。  
はじめは、何こ ありましたか。

⑧ はじめの数=8こ? もし、食べなかったら  
たべる前の数=のこり13こより 少ない?

⑨ はじめの数=18こ? 多い?

【問題文→立式→テープ図→立式の見直しという思考過程を構造化した板書】

### 4 手立ての効果

演算決定の際、問題文の言葉にだけ着目して立式していた多くの子どもが、問題文→立式→テープ図→立式の見直しという思考をさせたことで、問題場面をテープ図に正しくかけば、どんな式になるか分かることを実感した。さらに、求めたいところがテープ図の「部分」なら「ひき算」、「全体」なら「たし算」になることを見出した子どもたちは、問題解決にテープ図を進んで活用しようとする態度が見られるようになった。

### 5 若い先生のためのワンポイントアドバイス

テープ図が演算決定の『思考の道具』となるように、単元を通して問題文に示された要素の関係を的確に図に表すことを指導し、問題文と式を関連付けて説明する活動で図を用いさせていくことが大切である。

## さめきの授業 基礎・基本Ⅱ-1 言語活動を充実させる指導 「順序よく整理して調べ、予想を確かめる」とは？ ー 樹形図に整理する ー

### 中学校第2学年 数学 単元「確率」

#### 1 本実践で身に付けさせたい「考える力」

確率を用いて不確定な事象をとらえ説明する力

#### 2 実践の概要

学習課題を「5本のうち、2本の当たりくじが入っているくじを2人が順に引くとき、先に引くか後で引くかによって当たりやすさに違いがあるか」とした。子どもが直観的に、あるいは、実際に何回かくじ引きを行い**結果の予想**を立てた後、多数回試行を通して**予想を修正したり、予想を説明する方法を考えたりする場面を設定**した。その後、くじ引きが公平である理由を、**確率を根拠として説明する活動**を取り入れた。

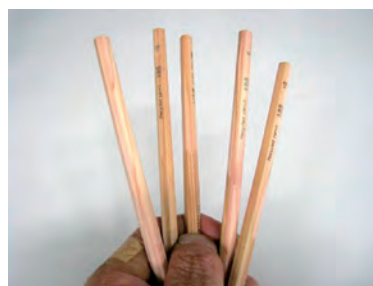
#### 3 手立ての具体

具体的には、次のように展開した。

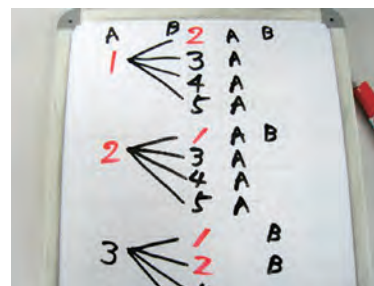
- ① 「先にひく方（A）と後でひく方（B）のどちらが当たりやすいか」を**予想**させ、その理由を発表させた。

##### 子どもの予想

- ・「先に引く方が、必ず2本当たりくじがあるから、先に引いた方が有利」
- ・「残り物には福があるという言葉もあるので、後で引いた方が有利」 など



【実際にくじ引きをする】



【小黑板を利用して発表】

- ② 多数回試行を通して**当初の予想を修正したり、予想が正しいことを説明する方法を考えたりする場面**を設定し、結果や説明方法に見通しをもたせた。
- ③ 樹形図を使って、起こりうる場合の数を考え、先に引いた場合の確率と後から引いた場合の確率をそれぞれ求めさせた。
- ④ くじ引きが公平であることの**理由を、確率に基づいて説明する活動**を取り入れた。  
教師「どちらが当たりやすいか、根拠を示して説明してみましょう。」  
子ども「樹形図を作ると全部で20通りあり、Aが当たるのは8通りです。Bも8通りなので、AもBも当たりやすさは同じです。」  
「AもBも当たる確率は2/5になるから、当たりやすさに違いはありません。」

#### 4 手立ての効果

子どもに予想を立てさせたり、操作活動を取り入れたことで、子どもの興味・関心を高めることができた。また、予想が正しいことをどのように説明するかについて考える場面を設定し、見通しをもたせたことは、子どもが自ら筋道を立てて考えるという点で効果があった。さらに、実生活の中で経験している「ガラガラくじ（福引き）」でも同様のことがいえそうだとすることに気付いたり、くじという不確定な事象を、確率を根拠として説明できたことに感動したりした子どももいた。

#### 5 若い先生のためのワンポイントアドバイス

言語活動を充実させるためには、数学的活動を意図的・計画的に取り入れることが大切である。その際、子どもの十分でない説明を大切に、数学的な表現を用いてより簡潔で的確な表現に練り上げる場面を設定することが重要である。その中で、樹形図のかき方など基本的なことを再度確認することも考えられる。



# さめきの授業 基礎・基本Ⅱ-1 言語活動を充実させる指導 「相手を想う思考力はシミュレーションで」とは？ 一道案内シミュレーション

## 中学校第3学年 英語 単元「Speaking 3 道案内②（電車の乗りかえ）」

### 1 本実践で身に付けさせたい「考える力」

外国人が香川県にお遍路をするためにやって来た際に、電車を使って移動するという場面で、分かりやすく説明をするために、どのような表現を使えばよいかを考える力

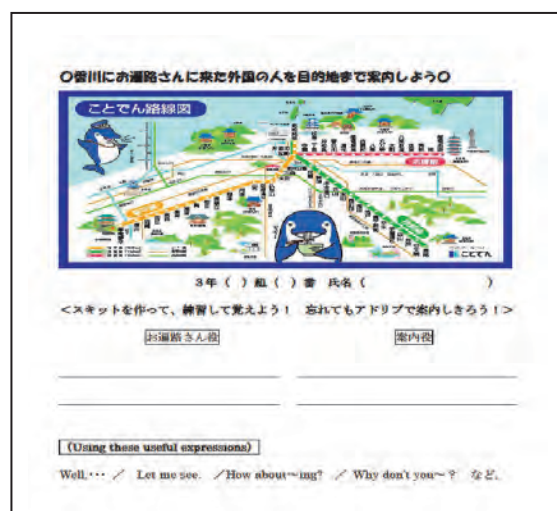
### 2 実践の概要

本時の目標「外国人のお遍路さんを道案内しよう」を設定した。教科書の本文の基本表現以外に、子どもたちに身近な例として琴電路線図を使用したり、教科書以外に学習した表現（アドリブなど）を入れたりすることにより、目的意識を高めようと考えた。

### 3 手立ての具体

子どもたちの言語活動を円滑に進めるために、以下のような手立てを設けた。

- ① 道案内の場面をイメージさせるために、琴電路線図を各ペアに準備した。
- ② 表現の幅を広げるために、路線図は2つのパターンを準備した。
  - a 寺の名前や有名な場所の名前が入ったもの。
  - b 琴平線、長尾線、志度線の路線図だけのもの。
- ③ お遍路さんがいる場所を高松駅と設定した。
- ④ お遍路さんの目的地を〇〇寺として設定し、そこに行くためにどのようなやりとりがあるかを考えることを指示した。



【本時のワークシートの一部】

### 4 手立ての効果

教科書の会話文を基本としたスキットだけでなく、目的地まで案内する際に、お腹が空いて有名なうどん屋に行きたいのでその場所を聞いたり、有名な観光地を尋ねたりするなどの表現を入れたスキットを作成することができた。

また、練習時間を十分に確保し、原稿を読むのではなく、役割を演じることができていた。

さらに、ジェスチャーやアドリブを用いて、何とかして相手に伝えようとする工夫もできていた。



【ペアで原稿を見ずに練習を行う様子】

### 5 若い先生のためのワンポイントアドバイス

本時、身に付けさせたい力を黒板に提示し、本時のめあてを明確にすることは、教師と子どもが目標を共有することにつながる。また、教師のしかけ次第で、限られた中で、子どもたちが英語を使う時間を、より多く確保することが可能となる。さらに、毎時間の授業の積み重ねを大切にすることで、生きた英語を使える子どもたちを育成することができる。

## V おわりに

「さぬきの授業 基礎・基本」のもととなる「新しく教員になったみなさんへ（昭和54年～）」には、「思考力」の育て方として、次のような内容がありました。

思考には、記憶をたどる、比較する、原因を探る、構想を立てるなどがある。また、部分過程において働く思考として、「直観」「思考操作」「if-then 的思考」「拡散的思考」「収束的思考」「帰納」「演繹」がある。体的な例を挙げて研究しよう。

〈思考の行き詰まりを打開させる手立て〉

- 考える対象を分析的にとらえる
  - ・ 対象をいくつかの要素に分けさせる
  - ・ 対象の持つ関係や構造に目を向けさせる
  - ・ 対象のもつ性質に目を向けさせる
- 考える対象の条件等を変えてみる
  - ・ 対象を変化させて示す
  - ・ 対象の一部の条件を除いて示す
  - ・ 対象に一部の条件を加えて示す
  - ・ 否定して示す
  - ・ 対象を変化の中に位置付けさせる
  - ・ 置き換えて示す
- 考える対象の範囲を広げる
  - ・ 類似の概念やものから考えさせる
  - ・ 対立概念や異なるものから考えさせる

このように、「考える力を育てる指導」は、古くて新しい課題だと言えます。

共通することは、具体的な子どもの様相や授業の場面を基にその手立てを考えていることです。つまり、子どもの側に立って子どもが考えるとはどういうことなのかを、教師が考えることです。（子どもが）考えるということ（教師が）考える。これは、これからも大切にしていきたいポイントです。

異なることは、最近では、表現や理解との関連で見えにくい思考までも捉えようとしている点だと思います。思考も理解も心の動きである以上、目に見える子どもの表現を手がかりに目に見えない思考や理解を捉えようとする試みだろうと思います。これもやはり、「子どもの側に立つ」という意味では同じことなのかもしれません。

事例を通して、考える力を育てるには、大きく2つの道があることが見えてきました。1つは、考えることを通して、考える力を育てるということ。もう1つは、視点や方法など考え方を指導することで考える力を育てようとする試みです。

本冊子をきっかけに、1時間の授業の中で、一度は子どもが「う～ん」と考える場面が創られることを期待しています。きっと、葛藤や選択、試行錯誤といった考える場が考える力を育てることでしょう。そして、考えた成果を実感し、「なるほど、こういう考え方をすれば解決するのか」と、考える視点や方法などの見方・考え方が積み重なっていけば、真の学力を身に付けた子どもが育つのではないかと思います。

各学校において、例えば「5 若い先生のためのワンポイントアドバイス」に書かれていることをめぐって、「これは具体的には、どんな場面のどんなことを意味しているのだろう」と議論が進み、個人の経験値だけに依存する授業を脱却し、チームとしての授業改善が図られることを願っております。

さぬきっ子 学びの三訓

- 一 準備して
- 二 姿勢整え
- 三 しっかり聞こう



香川県教育委員会



さぬきの教員 がかわりの三訓

- 一 共感的に受け止め
- 二 チームの力で
- 三 毅然と粘り強く



香川県教育委員会